

永田一二 ジャーナリスト。短い生涯の中、毎年のように移動して、全国各地の新聞の記者・主筆を務めた。

ながたかずじ

国定忠治磔・1850 = 豊前國中津藩士永田源右衛門の長子として生まれる。

ペリー来航・1853 = 3歳：

安政の大獄・1859 = 9歳：

桜田門外変・1860 = 10歳：

明治維新・1868 = 18歳：

資性淳朴で藩主奥平昌邁の信任が厚く、

廃藩置県・1871 = 21歳：藩主に雇従して上京、慶応義塾に入学したが、帰藩して中津英学校に入学、

学問のすすめ1872 = 22歳：同校の助教となる。

明治6年政変 1873 = 23歳：

大分公立英中学校・中津市学校・杵築公立中学校の教員を歴任後、再び慶応義塾に入学し、

初の民間工場1875 = 25歳：卒業、直ちに推されて同塾の教員となった。

西南戦争・1877 = 27歳：高知立志舎の教員として招かれたが、

大久保暗殺 1878 = 28歳：辞して上京、慶応義塾の教員に復した。

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 30歳：{愛国志林}{愛国新誌}の記者として下阪し、

明治14年政変 1881 = 31歳：*{山陽新報}主筆、

新体詩抄・1882 = 32歳：関西自由党の機関紙{日本立憲政新聞}の記者となり各地を遊説後、杉田定一らが創刊した{北陸自由新聞}の主筆に就任、

岩倉具視没・1883 = 33歳：同紙廃刊後は大阪に帰り、中島信行らと自由党党勢拡張のため各地を遊説した。

秩父事件・1884 = 34歳：静岡の{東海暁鐘新報}の主筆に招聘され、社長に就任したが、病を得て辞任。

上京してもっぱら療養につとめ、回復後、山陰各地を遊歴し、

帝国大学始・1886 = 36歳：再び上京して、教育、翻訳などに従事。

国民之友始・1887 = 37歳：{海南新聞}の主筆に招かれ、傍ら伊予尋常中学校の教壇に立つ。

帝国憲法発布 1889 = 39歳：乞われて福井の{北陸公論}の主筆となるものの、

帝国議会始・1890 = 40歳：辞任して{江湖新聞}{翌年{立憲自由新聞}と改題)に入社。

大津事件・1891 = 41歳：千葉の{東海新報}の主筆、

大本教・1892 = 42歳：辞して東京に帰り、農商務省の嘱託となった。

郡司千島探検 1893 = 43歳：{岡山日報}の主筆となるも、辞して帰京。

日清戦争始・1894 = 44歳：*{再生北陸政論}の主筆として招聘され、

日清戦争終・1895 = 45歳：

健筆を振るったが、

八幡製鉄始・1897 = 47歳：没した。

著書に「仏国革命盛衰記」「西洋女訓」「紳士と淑女」などがある。